



今月の題字
いしむら えりちゃん
(船越小2年)

田丁のわだい

鯨館で大ナマズを飼育 大きな口と見事なひげを披露

鯨と海の科学館で体長60㌢のナマズが飼育され、特徴のある大きな口と見事なひげを披露し入館者の人気を集めています。7月5日、船越の西館三喜男さん(58歳)が水田の見回りの際に、泥水の中で体をくねらせているナマズを発見。たも網ですくい揚げ同館に持ち込んだものです。本町で見かけるのは大変珍しく、約500㌢離れた入江田沼から水路伝いに入り込んだものとみられます。地震の発生を事前に知らせるというナマズ。最近地震が頻発しているだけに、突然暴れ出したときは地震に警戒したほうがよさそうです。



国家公務員の初任者研修 地方が抱える課題など学ぶ

7月7日から11日まで、国家公務員Ⅰ種合格者の初任行政研修が本町で行われました。研修に訪れたのは農林水産省の山崎康司さん(24歳)、国土交通省の三井雄一郎さん(25歳)、環境省の須田恵理子さん(25歳)の3人。町の概要について担当者から説明を受けたほか、水産関係者との懇談や実地研修などを行い地方が抱える課題や取り組みを学びました。10日午前5時半からは、かきやホタテの養殖施設を視察。養殖いかだで水揚げ作業の体験や貝殻の処理場の見学をするなど、漁業の厳しさを肌で感じ取っていました。

書道講座に21人 書の楽しみ方に理解深める

町芸術文化協会(馬場善也会長)主催の書道講座が7月20日、町中央コミュニティセンターで開かれました。書道にもっと親しんでもらおうと行われたもので町民21人が参加しました。始めに講師の阿部一舟さん(県書道協会副会長)が「生活の中に飾る書」と題して講話。身近な書の楽しみ方について理解を深めました。その後実技が行われ、参加者はいろいろな書体の書き方や自分が書いた作品の添削指導を受けるなど、真剣なまなざしで取り組んでいました。



水しぶきを上げて海面を快走する鯨カヌー

山田ビーチフェスティバル 鯨カヌーレースで熱戦展開

第23回「山田ビーチフェスティバル」が7月20日、浦の浜海水浴場で開かれ、1,000人の家族連れなどでにぎわいました。砂浜では宝探しやビーチサンダル飛ばしなど多彩なイベントが繰り広げられ、親子で砂を掘り起すなど仲むつまじい光景が広がっていました。海上ではフェスティバルのメインイベント「鯨カヌーレース」を開催。今年から新たに設けられた小学生の部には6チームがエントリーしたほか、一般の部には町内外から13チームが参加し、観客の声援を浴びながら熱戦を展開しました。結果、一般の部は「鯨ヶ崎ファイターズ」(宮



宝探しで、砂まみれになりながら宝の入った袋を探す子供たち(写真上)／オープンニング行事では、えびすまきが行われ、投げ込まれるお菓子などを取り合っていました(丸写真)



古市)が優勝、2位に「北小おやじの会No1」、3位は「大沢フロンティア」、4位は「北小おやじの会No2」でした。大人顔負けの力強いオールさばきで、激走した小学生の部の優勝は、「ホリさんとゆかいすぎる仲間たち」(船越小)。2位には「ウォーターガールズ」(山田南小)、3位は「山北TOBIUO」(山田北小)、4位に「U.Sマリーン」(大浦小)が入りました。

商工会 女性部 バルーンアート講習会

商店街の雰囲気になぎやかに

7月25日、町商工会女性部(熊谷なり子部長)では、バルーンアート講習会を町商工会館で開催しました。商店街の活性化に役立てよう行われたもので、本町と遠野、大槌、田老の商工会女性部員20人が参加。日本バルーン協会会員の菊池玲子さん(釜石市)を講師に、風船の特徴や色づかいなどの基礎を学び、さっそく夏をイメージした作品の創作に挑戦しました。参加者はバルーンの選び方や空気の入れ具合に四苦八苦しながらも、華やかな作品を次々に完成。館内は外の梅雨空と対照的に夏の雰囲気が漂っていました。

